

【京都総評第96回定期大会特別決議】

北陸新幹線京都延伸計画の断念を求める特別決議

北陸新幹線延伸計画（小浜－京都ルート）をめぐる、重大な局面をむかえています。京都総評は、この「京都延伸計画」の中止・断念を求めます。

8月7日、与党プロジェクトチームの求めで、国土交通省は、京都市内を大深度トンネルで通すルート3案（南北京都地下駅、東西京都地下駅、桂川駅付近に地下駅）と、その建設費を提示しました。住民の反対で、環境アセスメント調査ができず、脱法的なボーリング調査を強行しての発表です。どのルートも、京都市内は、居住者の許可が必要ないとされる大深度（40m以上の深さ）に、巨大トンネルを建設する計画です。

これらを見れば、①地震多発の下で長大な地下新幹線の無謀、②暮らしと生業、文化を支える地下水の枯渇や水質への影響、③掘り出した残土による環境汚染、④当初の倍以上、5兆円を超える建設費と、府民・自治体負担、⑤着工の条件を満たさない投資効果と28年もの工期、⑥並行在来線を含む公共交通の切り捨てなど、私たちが指摘してきた問題は、いっそう深刻です。

この間、地元自治会をあげた住民の反対や専門家の意見に加え、地下水を生かし、利用する多くの皆さんの心配や反対の声が広がっています。安全のためにトンネルを少なくした初期の新幹線建設の経験など、国労の仲間からも、時代錯誤の計画だと指摘されており、京都新聞は8月の社説で「立ち止まって再考することを強く求め」ました。また、石川県議会をはじめとする地方議会が、京都ルート以外の計画への変更を求め、松井京都市長が「地下水・財政への懸念から慎重姿勢」を表明するなど、世論と運動を背景に、新しい局面が生まれています。しかし、自民党・公明党の国会議員でつくる与党プロジェクトチームは、現行計画で来年度中の着工に固執しています。

将来にわたって、働く者に大きな負担を押し付け、地域の生業も暮らしや命も脅かす「北陸新幹線京都延伸計画」は、いまずぐ中止・断念することを強く求めるものです。

以上、決議します。

2024年9月7日

京都地方労働組合総評議会第96回定期大会